

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年1月11日

協議会名: 安曇野市地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
南安タクシー(有) 安曇観光タクシー(株) あづみの第一交通(株)	<ul style="list-style-type: none"> ・デマンド交通「あづみん」区域型運行。 ・地域間幹線系統路線に接続する7系統を運行。 ・車両減価償却費国庫補助金(南安タクシー(有)2台)を受給。 	<p>令和2年度に実施した網形成計画の中間評価結果より、デマンドのサービス向上を図ることを確認。これを受け、デマンドの充実、具体的には、待ち時間の見える化、予約断り件数の改善、区域をまたぐ場合の運行導入、休日(土曜日)の運行導入について、検討を行った。</p> <p>また、R2年12月からR3年3月にかけて市民約600人を対象に対面式での聞き取り調査を実施。現在のデマンドのドアツードア方式が高く評価されていることを確認した一方で、デマンドを利用したことが無い市民が、デマンドの不便さ(乗継が必要な場合がある、休日に運行していない、待ち時間が長い)を口コミなどで聴き先入観を持っていることも分かった。</p> <p>こうした状況を踏まえ、デマンドの利便性や利用方法をより分かりやすくお知らせするためにデマンド案内チラシを刷新し、新規利用登録者を中心に周知を行った。</p>	A 当初の計画通り事業を実施することができた。	C 年間目標利用者数を87,600人に設定していたが、R3年度の実績は、年間利用者数77,882人、日平均利用者数は320.5人であり、目標達成には至らなかった。 未達成の要因の一つとして、コロナ禍によりライフスタイルが変化(公共交通から、自家用車や家族送迎にシフト)していることが考えられる。 また、首都圏等における緊急事態宣言の発令および松本圏域における感染警戒レベルの引き上げに伴い、感染拡大防止対策として、期間中3度にわたり1台当たりの乗車人数の制限を行ったこともあり、利用者数が伸び悩んだ。 一方で、障がい者等の通所や免許不保持者の利用は継続しており、一定の事業の効果は維持されている。	<p>左記③の検討を踏まえ、R4年11月(予定)からデマンドの新運行(一部実証運行)を開始する計画であり、今後当協議会において決定していく。</p> <p>ワクチン接種の影響もあってか、コロナ感染状況はR3年10月以降落ち着きを見せているが、利用者のライフスタイルの変化もあり、コロナ禍前の状況には戻らないと考えている。持続可能な公共交通としてデマンドを維持していくためには、既存の利用者に加えて新たな利用者を増やしていくことが求められる。</p> <p>従来の利用目的(高齢者や障がい者の移手段)だけでなく、新たな利用目的(観光やビジネス、通園・通学などの移手段)を持つ利用者を取り込むため、最新のモビリティサービスを導入するなど、機動性、柔軟性をもって事業展開する。</p>

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和4年1月11日

協議会名：	安曇野市地域公共交通協議会
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>安曇野市は長野県中央部西側に位置し、人口は9万7千人弱、面積は約332km²で、平成17年10月に5町村が対等合併して誕生した市である。北アルプスの山岳地帯と山間部及び平たん部から構成されている。人口は減少傾向が続いており、平成29年1月時点と比べると約1,300人減少している。また、市全体人口に対する65歳以上が占める割合は約3割となっており、全国の多くの自治体同様、本市においても少子高齢化が進行している。</p> <p>当協議会では、本市の地域性を踏まえ、市全域でデマンド型乗合タクシー「あづみん」(以下「あづみん」と言う。)の運行を行っており、日中は高齢者・障がい者を中心として医療機関等への通院や買い物、福祉施設への移動手段を確保している。また、あづみんの運行前後の時間帯には、市外へ至る重要な公共交通であるJRの2路線間を結ぶ定時定路線を運行し、通勤・通学者の移動手段の確保を図っており、生活交通ネットワークを構築しているところである。</p> <p>当市では、平成30年6月に市地域公共交通網形成計画を策定し、「あづみん」を中心とした日中の生活交通の維持、充実及び朝夕の通勤、通学のための移動手段を確保している。特に「あづみん」については、運行の一部見直しを行うことで利用者の利便性向上や予約の断り件数を減らすことに取り組んでいる。また、令和3年度には「あづみん」案内パンフレットを刷新し、新規登録者や未利用者への広報、周知を行っている。</p> <p>「あづみん」は平成19年10月の本格導入から15年目を迎え、高齢者、障がい者をはじめとする交通弱者の足として定着しているが、今後予想される高齢化の進行及び自動車免許自主返納者の増加により、公共交通としての必要性はより一層増していくと考えられる。また、観光客やビジネスパーソンなど、公共交通を利用して本市へ来訪される方の二次交通としても機能させていく必要がある。</p> <p>ドアツードア方式というサービスレベルの高さを広く周知することで利用者を確保し、市民の暮らし、来訪者の移動、生活を支える“足”となる持続可能な交通体系の維持、確保につなげたい。</p>